まんだら通信

第263号（通巻297号）

令和2年12月　西暦2020年　佛暦2563年　皇紀2680年

安房国八十八ヶ所　第一番札所
295-0103　千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派　天神山　紫雲寺　鈴木龍芳
郵便振替　00120-2-43163　紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
http://www.shiunji.org/
Mail post@shiunji.org

除夜の鐘

昭和五十二年に梵鐘(ぼんしょう）が出来、除夜の鐘をつくようになってから四十数年がたちました。今年も皆さんと一緒に除夜の鐘をつきたいと思います。

今回、山門の修理を行うにあたり、役員さんや職人さんと山門を眺めながら、さてこの山門はいつ作られたものでしょうか？と言う話になりました。

私の知る限りでは、明治の初め頃と聞いているのですが定かではありません。

とお話していたのですが、平成十年七月発行の『まんだら通信』には、

徳川時代になって、制度の上で格式をうるさくいうようになりました。山門もその一つで、どこのお寺にも山門があるわけではありません。

紫雲寺は、一応本寺でしたから、余り裕福ではなかったかも知れませんが山門があります。

ここから内側は「聖域」つまり仏様の世界です、と言う意味があります。

本堂よりも古いことは確かですが、ではいつごろ建てたのかはわかりません。

と父が書いています。

とすると私が思っていたより以前から建っていることになります。ますます、わからなくなりました。どなたか、小さなことでも、ご存知のことがありましたら、教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

さて、梵鐘が下がる鐘楼堂については、昭和九年に完成したということです。川下の番匠さんの御先代、山口大吉さんが二十歳台の頃のお仕事だそうです。地元のしかも檀家さんがこのように立派な建物を遺してくださったことを、誇りに思います。

山門、鐘楼堂、また本堂と、建築の時期はちがってもその時々の檀家の皆様、地域の皆様、また当山にご縁のある方々が苦心し力を合わせて、建造し守り続けてきたということに違いはありません。その意味からも、現在修理中の山門が、もうしばらくは今のままの姿であって欲しいと願っています。

昨年、今年と色々困難なことがありましたが、それでもこの鐘をつきながら新しい年を迎えられることに安堵するとともに来年はどなたにとってもよい年になることをお祈りします。

本年は新型コロナ感染予防のため、甘酒のお接待はいたしません。防寒をしかっりしてお参りください。

元朝護摩

除夜の鐘とともに元朝護摩法要を致します。

手作りのお護摩札で、皆さんのお願い事を祈願します。

お初穂料は二千円です。

お電話、ファックス、メールでのお申し込みもお受けいたします。宅配便での発送もいたします。

ふるさと長尾

平成十年に当時、長尾小学校長をなさっていた佐藤重惠（よししげ）先生が長尾地区の年表を作ってくださり、平成十五年に長尾地区の石造物とともに白浜町教育委員会が発行した、冊子があります。

『ふるさと長尾ー歴史年表と石造物ー』という八十ページ程の本です。

本来、佐藤先生が児童のふるさと学習のためにお作りになったものですが、地元や寺の歴史を調べるのに大変重宝するので、いつも手元においています。

多分私が地元育ちでありながら、あまり白浜のことに詳しくないせいもあるのでしょうが、へーと思うことがたくさんあります。

たとえば、今からほぼ百年前の大正六年九月三十日には大暴風と高波のため、沿海の各村で多くの被害がでる。

とあります。さらに地域の産業の推移なども伺い知ることができます。

昭和十八年、この頃食用なばなが白浜町からツマナとして出荷される。とあります。

また、後半には地区内の石造物が紹介されていて、この本を片手に近所の散歩すると、ガイドブック片手にちょっと遠出したような気分になれます。

なかなか、気軽に遠出できない昨今なので、身近な場所を今一度見直してみるのもいいのではないでしょうか。

普段見慣れためがね橋も橋の脇の説明を読みながら眺めると、新鮮に見えました。

残念ながら、この本はもう入手できないと思いますが、私の物で良かったら、ご覧になりたい方はどうぞお知らせください。

やさしさにつつまれる小さな物語

おばあちゃんへの感謝状

鹿児島県　米重　佳代子(三十七歳)

私には、今年九十二歳になる祖母がいます。

数年前に祖父を亡くし、一人暮らしになった祖母ですが、九十二歳とは思えないほどしっかりしていて、それでいて、お茶目で可愛らしく、頭の回転の速い祖母です。

暑さのせいで体調をくずし、入院した時も、男性の職員の方に入浴介助をしてもらったとき、「下着もぬぐんですよね？」と聞いた祖母。「お風呂ですから・・・・」と返され、赤くなりながらお風呂に入ったことを恥ずかしそうに話してくれました。

「おばあちゃんのような年のとり方をしたい。長生きの秘訣は？」と尋ねる私に、しばらく考えて、ゆっくりと「何事にも感謝することかな」と答えました。

確かに祖母は、よく感謝の言葉を口にしています。朝、気持ちよく目覚めることができて感謝、食事を運んできてくれた看護師さんに感謝。「日々の暮らしの中でしてもらうことを、あたり前と思ってはいけない」と。

不自由で待たされることも多い入院生活の中でも、「感謝の気持ちがあれば、イライラすることもない。人生がより豊かになる」と教えてくれました。

仕事と子育ての合間に洗濯物を届ける私に、「いつもありがとう。ごめんね。人が生きるうえで絶望を感じるのは、人の役に立てなくなることね」と、悲しそうに口にした祖母。

とんでもない。私はあなたの生き方に教えられています。九十二年分の教科書を読むように、日々教えられています。

おばあちゃんのひと言ひと言が、私の人生を豊かにしてくれます。これからも、いろいろなことを私に教えてください。

いつもありがとう！

ナゼナゼすれば

兵庫県　林　洋子(六十六歳)

孫を連れて、お地蔵さまの祀られている境内に差しかかった時、蝉の声が聞こえました。

「セミが鳴いているよ」と言ったら、孫は「ナゼナゼすればいい」と言いました。自分が泣いた時、ママがだまって、背中をナゼナゼしてくれた体験から生まれた言葉だと思いました。泣いた時、「ダマレッ」「ナクナッ」なんて躾けられたら、こんな言葉は生まれません。

「たくさん鳴いているよ」と言ったら、「みんなでいけばいいよ」と言って、木立のなかへ入っていきました。蝉の背中をナゼナゼしようと・・・・。小さな子ども、誕生日を迎えたばかりの二歳児です。三歳でも四歳でもない、二歳の子なのです。小さな親切心は、二歳の子の心に芽生えることを発見しました。

親切は教えるものではないことを知りました。二歳前後の子に対する母親の姿勢が、子どもの心を左右することを知りました。

「泣く」と「鳴く」はわからなくても、二歳児の小さな親切に感動した一瞬のドラマでした。

以上の二つのお話は、前号に引き続き「やさしさにつつまれる小さな物語」「小さな親切運動」運動本部編からです。

疫病退散御守札

この度、京都のご本山から明王殿において加持祈祷されたお守札を賜りました。

全世界のコロナ渦が一日も早く終息し、平穏な世の中を取り戻すとともに罹患されている方の快復と檀信徒の皆様の身体健全を祈念する御守札です。

暮れのお寺参りの際、あるいは役員さんにお願いして、皆さんにお渡ししたいと思います。

お問い合わせは、紫雲寺まで。

(縦7センチ、横5センチ程の大きさなので、郵便でもお送りできます)

余滴

▼早いもので、今年も残すところ二十日となりました。恥ずかしながら今年の『まんだら通信』は三号のみの発行となりました。にもかかわらず温かい応援やご援助をいただき、恐縮しております。皆さん、どうもありがとうございました。来る令和三年が皆様にとって良い年になりますよう心からお祈りしています。

▼外出を控えているため、またマスク越しの会話だと聞き取りにくい、話しずらいことなどから、コロナ渦以前に比べて口を動かす回数が減っていないでしょうか。心がけて口を動かすことで、口やのどの筋肉が落ちないようにすることが大事だそうです。のどを鍛えることで、将来、誤嚥性肺炎を防ぐことにつながります。食事の時に噛む回数を多くしたり、口の体操をしたりすると良いそうです。

▼写真　イヌタデ【タデ科イヌタデ属】
　別名　アカマンマ　別名のアカマンマの呼び名の方が親しみのある名前です。子どもの頃のままごと遊びではもちろん赤いご飯として葉っぱのお皿に乗せました。葉に辛味がなくて役に立たないことからイヌタデという名前なのだそうです。

2020.12.10　龍芳